

## ■ 概況

3/8~3/14のNYMEX・WTIは、60.12~62.04ドルの範囲で推移した。

3月15日は、国際エネルギー機関(IEA)が月報で2018年の需要の伸びを前年比150万b/dと前回報告から10万b/d上方修正したことなどを背景に続伸した。4月限の終値は前日比0.23ドル高の61.19ドルだった。

週末16日は、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が800基(前週比4基増)と増加したものの、米国株価の回復基調による投資家のリスク選好姿勢の回復、20日予定のトランプ大統領とサウジのムハンマド皇太子の会談でイラン核合意の見直しが議題になるとの報道等から、3日続伸した。4月限の終値は前日比1.15ドル高の62.34ドルだった。

週明け19日は、米株価の値下がりを受けた投資家のリスク回避姿勢から4営業日振りに反落したが、サウジのムハンマド皇太子が米CBSとのインタビューで、イランが核武装した場合サウジも直ちに追従すると発言したことが、下値を支えた。4月限の終値は前週末比0.28ドル安の62.06ドルだった。

20日は、トランプ大統領がムハンマド皇太子と会談し、イランへの強硬姿勢で一致したことから、大幅に反発した。加えて、米国の対ベネズエラ制裁強化の動きも上昇要因となった。4月限の終値は前日比1.34ドル高の63.40ドルだった。

21日は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫増加が市場予想に反して取り崩しとなったこと、さらに、サウジとイランの対立が改めて認識されたことから、大幅に続伸した。この日から中心限月となった5月限の終値は1.63ドル高の65.17ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月

渡し)は、前週60.40~62.00ドルの範囲で推移した。3月15日61.50ドル、16日61.70ドル、19日62.60ドル、20日63.10ドルで推移した。

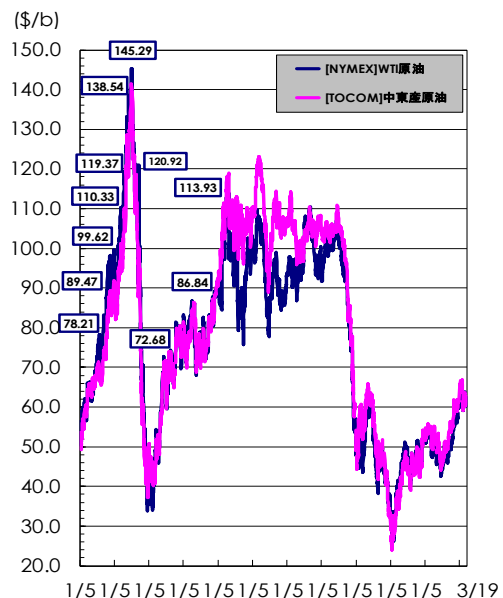
為替は、前週106.12~106.95円の範囲で推移した。3月15日106.04円、16日106.28円、19日105.93円、20日106.13円で推移した。

財務省が19日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、2月下旬の原油輸入平均CIF価格(速報)は、46,966円/klで前旬を541円下回り、ドル建てでは69.04<sup>ドル</sup>/バレルで前旬比0.20<sup>ドル</sup>安となった。為替レートは1<sup>ドル</sup>/108.15円。また、同日発表の貿易統計(速報・月間ベース)によると、2月の原油輸入平均CIF価格(速報)は、46,925円/klで前旬を1,277円上回り、ドル建てでは68.24<sup>ドル</sup>/バレルで前旬比3.71<sup>ドル</sup>高となった。為替レートは1<sup>ドル</sup>/109.33円。

主要元売会社の3月第4週に適用する卸価格は、ガソリンが据え置きと0.5円の値上げに分かれ、軽油が据え置き、灯油が据え置きとなった。原油価格はやや値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストはわずかに値上がりした。

そのような中で、3月19日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油は同0.1円の値下がり、灯油は同1円の値下がり(18<sup>%</sup>ベース)だった。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がり、灯油は2週振りの値下がりだった(18<sup>%</sup>ベース)。この週(3月第3週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、ガソリンが0.5~1.0円の値下げ、軽油が0.5~1.0円の値下げ、灯油が0.5~1.0円の値下げに分かれた。

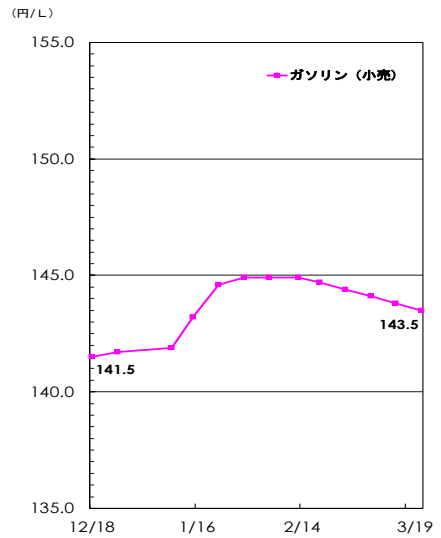
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/11 ~ 3/17	3,658 ▼ -69	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	93.4 ▼ -1.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/17	12,490 ▼ -166	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/19	62.65 ▲ 0.73	▲ 11.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/19	62.06 ▲ 0.70	▲ 13.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月下旬	69.04 ▼ -0.20	▲ 13.74
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	46,966 ▼ -541	▲ 7,511
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.15 ▲ 0.94	▲ 5.27
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/19	106.93 ▲ 1.02	▲ 6.47



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/11 ~ 3/17	1,026 ▲ 15	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	893 ▲ 16	▼ -	
	輸出	"	119 ▲ 4	▲ -	
	在庫	3/17	1,712 ▲ 14	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/13 ~ 3/19	57.3 ▼ -0.5	▲ 3.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/13 ~ 3/19	54.5 ▼ -0.6	▲ 3.5
		(TOCOM/中部)	3/19	57.0 ▲ 1.0	▲ 5.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/19	143.5 ▼ -0.3	▲ 9.7	

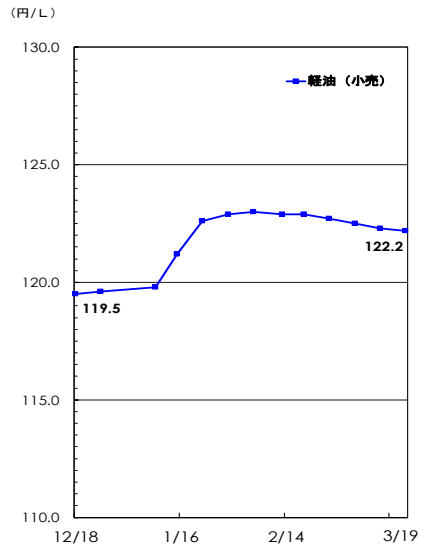
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

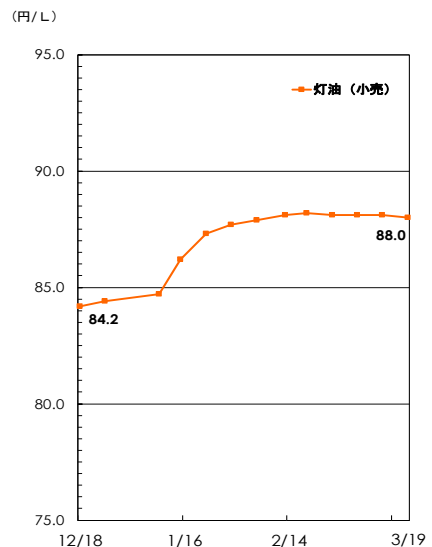
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/11 ~ 3/17	740 ▲ 15	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	602 ▼ -19	▼ -	
	輸出	"	52 ▼ -120	▼ -	
	在庫	3/17	1,285 ▲ 86	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/13 ~ 3/19	59.0 ▼ -0.6	▲ 7.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/13 ~ 3/19	62.0 → 0.0	▲ 16.0
		(TOCOM/中部)	3/19	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/19	122.2 ▼ -0.1	▲ 10.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/11 ~ 3/17	317 ▼ -85	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	288 ▼ -57	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	3/17	1,372 ▲ 29	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/13 ~ 3/19	62.0 ▼ -1.1	▲ 12.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/13 ~ 3/19	59.7 ▼ -0.6	▲ 13.3
		(TOCOM/中部)	3/19	59.5 ▼ -1.5	▲ 12.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/19	88.0 ▼ -0.1	▲ 9.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月21日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比260万バレル減と市場予想(同260万バレル増)に反して、4週振りの取り崩しとなったこと、前日のトランプ大統領・ムハンマド皇太子の会談で、イランへの強硬姿勢が確認され、サウジとイランの対立関係の深刻さが改めて認識されたことから、大幅に続伸し、2月初め以来1ヵ月半振りの65ドル台を記録した。この日から中心限月に繰り上がった5月限の終値は前日比1.63ドル高の65.17ドル、6月限の終値は前日比1.64ドル高の64.95ドルだった。

EIAによると、3月19日時点のガソリンの小売価格は、前週

比3.9セント値上がりの1ガロン2.598ドル(73.3円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.4セント値下がりの2.972ドル(83.9円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値上がり、ディーゼルは6週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年3月11日～3月17日に休止したトッパー能力は6.5万バレル/日で、前週に対して3.9万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は365.8万klと、前週に比べ6.9万kl減少。前年に対しては2.5万klの減少。トッパー稼働率は93.4%と前週に対して1.8ポイントの減少、前年に対しては6.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.5%増、ジェット/44.6%増、灯油/21.2%減、軽油/2.1%増、A重油/5.1%増、C重油/3.6%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比18.3万kl減)。軽油の輸出は5.2万kl(前週比12.0万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではA重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は89.3万kl(対前週1.8%増)と2週振りで前週比で増加、2週振りで前年比で減少となり、11週連続で100万klを下回った。ジェット6.6万kl(対前週54.6%減)、灯油28.8万kl(対前週16.6%

減)、軽油60.2万kl(対前週3.1%減)、A重油25.5万kl(対前週1.6%減)、C重油28.5万kl(対前週4.7%増)。

(単位:千KL)

	今週 (3/11 ~ 3/17)	前週 (3/4 ~ 3/10)	前週比	
ガソリン	893	877	▲ 16	(2%)
ジェット燃料	66	145	▼ -79	(-54%)
灯油	288	345	▼ -57	(-17%)
軽油	602	621	▼ -19	(-3%)
A重油	255	259	▼ -4	(-2%)
C重油	285	272	▲ 13	(5%)
合計	2,389	2,519	▼ -130	(-5%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月17日時点の在庫は、C重油のみが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは171.2万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては2.4万kl少ない。

灯油は137.2万kl、前週差2.9万kl増。前年に対しては15.9万kl多い。

軽油は128.5万kl、前週差8.6万kl増。前年に対しては31.2万kl少ない。

A重油は69.7万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては8.2万kl少ない。

C重油は186.4万kl、前週差5.7万kl減。前年に対しては11.9万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (3/17)	前週 (3/10)	前週比	
ガソリン	1,712	1,698	▲ 14	(1%)
ジェット燃料	866	711	▲ 155	(22%)
灯油	1,372	1,343	▲ 29	(2%)
軽油	1,285	1,199	▲ 86	(7%)
A重油	697	666	▲ 31	(5%)
C重油	1,864	1,921	▼ -57	(-3%)
合計	7,796	7,538	▲ 258	(3.4%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月13日から3月19日の原油価格は、前週対比でやや値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、3月13日～3月19日までの間、ガソリン110～111円台で値下がり後わずかに回復、軽油58～59円台で値下がり、灯油61～62円台で値下がりし推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン116円台で横ば

い後値上がり、軽油61円台で横ばい、灯油60～62円台で値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン108円台で値下がり後わずかに回復、軽油62円台で横ばい、灯油59～60円台で値下がり後やや回復して推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは据え置きと0.5円の値上げに分かれ、軽油は据え置き、灯油は据え置きとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、前週同様、海上ガソリンの値上がり・先物軽油の横ばいを除き、軒並み値下がりした。

3月第4週(3月22日～3月28日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月13日～3月19日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油は1.1円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.5円の値上がり、灯油は3.9円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.6円の値下がり、灯油は0.6円の値下がり、軽油は横ばいだった。原油価格はやや値上がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストはわずかに値上がりした。

3月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリンが据え置きと0.5円の値上げに分かれ、軽油が据え置き、灯油が据え置きとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/ℓ)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (3/13～3/19)	前週 (3/6～3/12)	前週比
	レギュラー	57.3	57.8
灯油	62.0	63.1	▼ -1.1
軽油	59.0	59.6	▼ -0.6

(TOCOM) (単位: 円/ℓ)

[期近物/終値] [平均]	今週 (3/13～3/19)	前週 (3/6～3/12)	前週比
	レギュラー	54.5	55.1
灯油	59.7	60.3	▼ -0.6
軽油	62.0	62.0	→ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/13～3/19実績値) (単位: 円/ℓ)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.5	▼ -0.6	▼ -0.6
灯油	▼ -1.1	▼ -0.6	▼ -0.8
軽油	▼ -0.6	→ 0.0	▼ -0.3
A重油	▼ -0.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

3月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の143.5円、軽油は同0.1円安の122.2円、灯油は同0.1円安の88.0円(18ℓペースでは同1.0円安の1584円)だった。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がり、灯油は2週振りの値下がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは4都府県、横ばいは6県、値下がり37道府県だった。全国最安値は徳島県の137.0円(同0.9円安)、次が埼玉県の139.0円(同0.4円安)、最高値は長崎県の151.8円(同横ばい)だった。最も値上がりしたのは、0.5円高の宮城県(141.7円)だった。最も値下がりしたのは、2.9円安の沖縄県(148.6円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は、ガソリンが0.5～1.0円の値下げ、軽油が0.5～1.0円の値下げ、灯油が0.5～1.0円の値下げに分かれ、5週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格はわずかに値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストはわずかに値上がりした。次週(3月26日)のガソリンと灯油の小売価格は横ばいが予想される。

(単位: 円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (3/19)	前週 (3/12)	前週比	直近高値
レギュラー	143.5	143.8	▼ -0.3	08/8/4 185.1
灯油	88.0	88.1	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	122.2	122.3	▼ -0.1	08/8/4 167.4

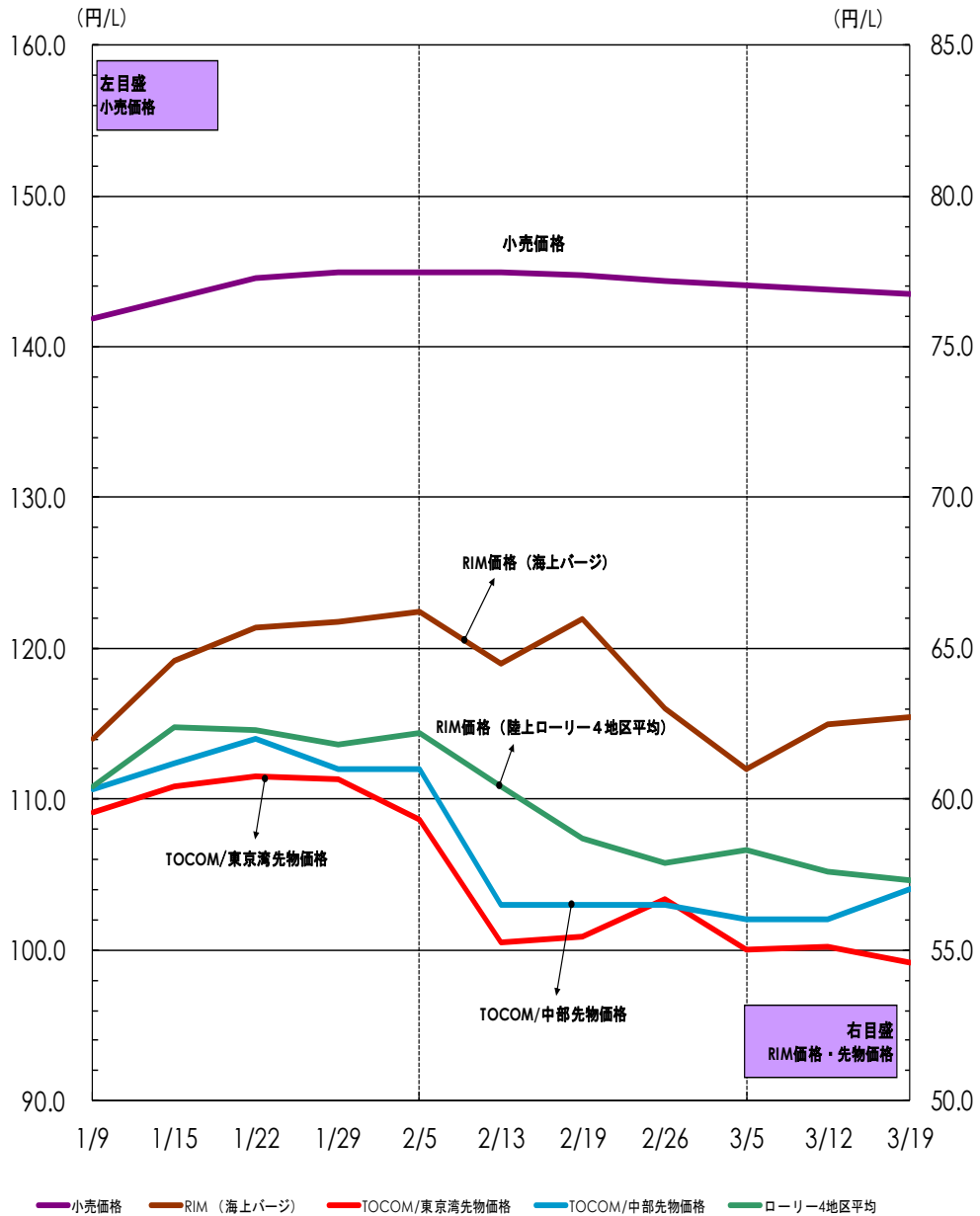
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2018/1/9 ~ 2018/3/19)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第49号)の公表は、3/30(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。